



まほろばの丘から



令和3年11月4日 文責 校長 江口 尋信

学校行事、校外活動を通して育つもの

9月末をもって緊急事態宣言が終わり、感染防止対策を講じた上でという条件付ではありますが、学校行事や校外活動が実施できるようになりました。

10月15日の「太西リンピック」をはじめ、6年生の「修学旅行」、5年生の「自然教室」など、子どもたちが楽しみにしていた学校行事が実施できることは、わたしたち教員にとっても大きな喜びです。また、2年生の「まち探検」、3年生の「地域の人との昔遊び」「消防署見学」、5年生の「農業体験」などといった校外活動では、教室の座学では得られない学びが実現できます。

身体全体で対象に働きかけ、関わっていく体験活動は、「見る（視覚）」「聞く（聴覚）」「味わう（味覚）」「嗅ぐ（嗅覚）」「触れる（触覚）」を働かせ、物事を感覚的にとらえることに大きな意味があります。自然体験は、五感を総動員し感性を最大限に伸ばす可能性がありますし、地域に住む人々との交流を経験することは、共存の精神、自他共に大切にすることを感覚として学んでいきます。

子どもたちには、学校行事や校外活動などの体験活動を通して多くのことを学んでほしいと思っています。



▲消防車の説明を聞く3年生



▲グループで森の中を探索する5年生

嬉しい地域からの電話

先週、地域の方から嬉しい電話をいただきました。

車で校区を通行中、交差点で停車したところ、高学年の女子が目を見て会釈をし、横断歩道を渡ったそうです。運転手さんにとって心に残るさわやかな行動だったのでしょうか。地域や家庭での子どもたちのよさについてお知らせいただくと、学校として大変励みになりますし、そのよさを広げる指導をおこなうこともできます。本当にありがたいことです。

学校では、「にっこり挨拶」という合い言葉で、気持ちのよい挨拶ができるよう指導をおこなっています。挨拶は目的ではなく、他者と心を通わせるための手段だと考えています。ですから、大きな声で挨拶をするだけでなく、この女の子のように、会釈を通して感謝の気持ちを伝えることもできるのです。学校には様々な特性をもった子どもたちがいます。中には、声を出して挨拶をすることが苦手なお子さんもいるかと思いますが、いろいろな方法で心を通わすことができることを教えていきたいものです。